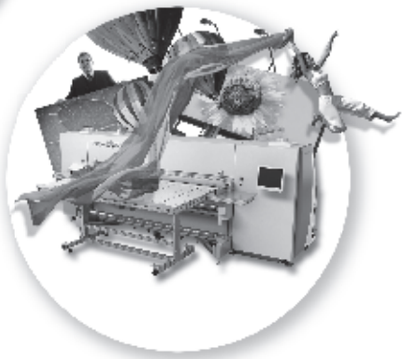
SCREEN

The Value Creation in Media Mix
“EQUIOSNET”

Commercial(CTP)

Document

Commercial(POD)



Wideformat

GREEN value21

大日本スクリーンは、ゆるぎない地位を確立したCTPワークフローに、独創のインクジェット技術を駆使したPODソリューションで「パーソナライゼーション」のエッセンスを融合した、新たな印刷ビジネスのソリューション「EQUIOSNET」コンセプトを全世界に提唱し、環境の世紀にふさわしい印刷ビジネスを提案してまいります。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン http://www.mtjn.co.jp/
VP営業統轄部 ／ 〒135-0044 東京都江東区越中島1丁目1~1 ヤマタネ深川1号館1F
TEL： 03-5621-8188（代）

大日本スクリーン製造株式会社
メディア＆プレシジョンテクノロジーカンパニー
http://www.screen.co.jp/

Creating a Future in Print

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009249

VEGETABLE OIL INK

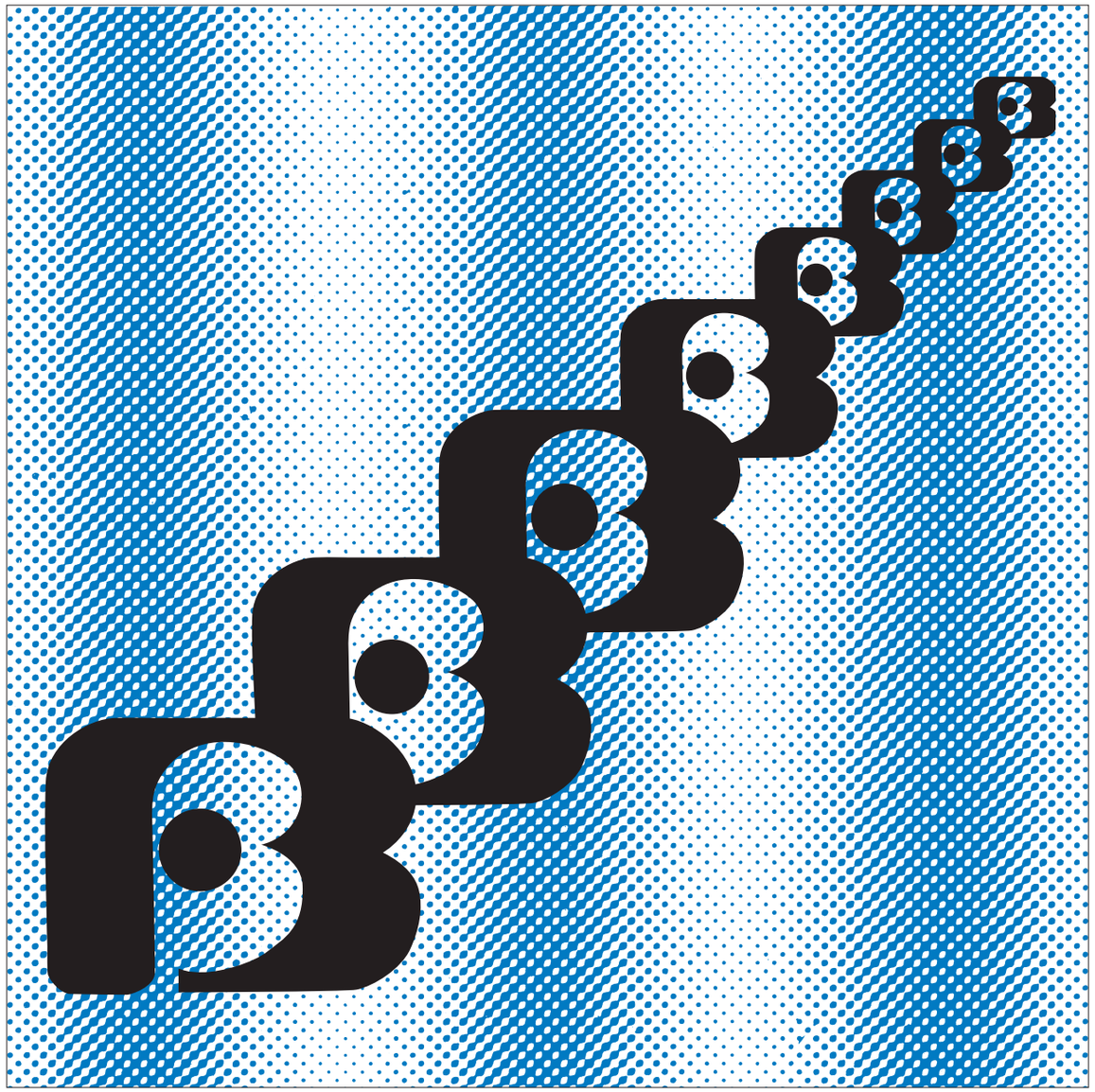
フォーム印刷

JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ http://www.jbfa.jp

NO. 373



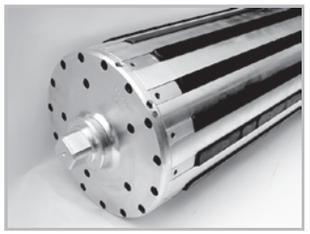
2012 .10

www.atem2000.it

ATEM エヤシャフト・チャック

超軽量で作業者の負担軽減・自動調芯機能
高い信頼性・その場で修理可能な構造
コア内径２５mm から５００mm まで制作可能

エアチャック


１０” エアシャフト

３” エアシャフト

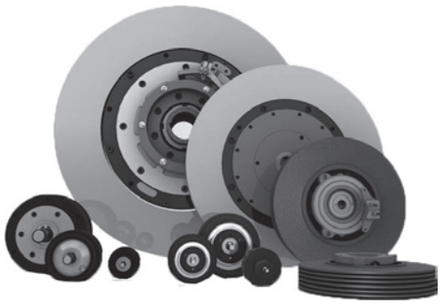
アルミ合金製のプロファイル・チューブとゴムまたはナイロン製拡張ストリップとの組み合わせにより従来より遙かに軽量かつ低コストを実現、使用現場での修理も簡単で工程のムダを大幅に削減できます。

テクノウエイブ株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国３４６
TEL 03-5625-2271　FAX03-5625-2272
E-mail info@tw-technowave.co.jp
http://tw-technowave.com/

メロベル製（フランス）テンションコントロールシステム

パウダブレーキ・クラッチ・デジタルコントローラー

MEROBEL


パウダーブレーキ・クラッチ

- 2 ローター＋1 層エアーギャップのシンプルな構造による優れたパウダー安定性
- 優れたパウダー安定性により、スムーズでリニアな初期動作が可能
- 垂直方向軸に適用可能（シャフトなしタイプ）
- 0.2Nm～1000Nm トルクまで、そして 5 段階の放熱レベルを提供出来る幅広いラインアップ
- 高いコストパフォーマンス

大阪本社 TEL 072-433-7100 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805
e-mail: inquiry@bstjapan.com　URL: http://bstjapan.com

BST
ビーエスティ日本株式会社

フォーム印刷

目　次

日本フォーム印刷工業連合会会報　2012. 10　No. 373

日本フォーム工連　平成24年度第４回理事会議事要録 …… 2
日本フォーム工連　平成24年度第５回理事会議事要録 …… 4
トピックス …… 7
　日本印刷産業連合会「2012年9月印刷の月」を開催
　平成24年度夏季講演会「The Communication ～情報革命とは何か？」を開催
工業会だより …… 12
　関東フォーム印刷工業会　夏季懇親会を開催
　東北フォーム印刷工業会　創立40周年記念旅行
　関西フォーム印刷工業会　定例会を開催
　中部フォーム印刷工業会　9月定例理事会を開催
　九州フォーム印刷工業会　第2回定例理事会を開催
INFORMATION …… 18
　国際委員会　北米印刷事情レポート（2012年7月～ 9月）
　海外情報誌「GLOBAL SCOPE」drupa特集を発刊（日本印刷産業連合会）
　「印刷産業経営動向調査2012」を発刊（JAGAT）
　「クロスメディアレポート2012」を発刊（JAGAT）
　「印刷白書2012」を発刊（JAGAT）

TOYOINK

東洋インキ株式会社
ECS事業統括部
〒104-8378 東京都中央区京橋2-3-13
Tel : 03-3272-7693
www.toyoink.jp

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ
FD フォーム X シリーズ

- 高い硬化性　UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅　水を上げても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性　着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート　H-17　BFシリーズ

特徴
☆UV･油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御
☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい
☆耐水性の低い染料系インキ･減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制

冨士薬品工業株式会社
FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD
HP URL　http://www.fcfuji.co.jp

本　社　〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10
TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205
大阪営業所　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1
TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

日本フォーム印刷工業連合会　平成２４年度　第４回理事会議事録

■平成24年７月12日（木）午後１時30分　日本印刷会館２階　201会議室
■出席者（24名）
櫻井会長、小谷副会長、瀬戸副会長、玉田常任理事、池田常任理事、林常任理事、神崎常任理事、土屋常任理事、越智(大久保常任理事)代理、福田常任理事、佐久間常任理事、杉山常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、北原理事、滝本理事、谷島(西川監事)代理、寺山監事、四方裕会員、山口(専務理事事務局)

議　題（１）委員会報告
（２）日本印刷産業連合会等関連報告
（３）各フォーム印刷工業会からの報告

議　事 冒頭、櫻井会長の開会挨拶があり議事に入った。

「櫻井会長挨拶骨子」

今回の理事会は新しい体制でスタートの理事会になります。私の目にはフォーム印刷は面白く広がりがある。私は業界の発展のために尽くすことを誓いたいと思う。

フォーム業界が活性化するように活動したいが、アゲインストの雰囲気だけがクローズアップされている。IT化の問題とか、iPadの問題、電子決済の問題など、アゲインストにはならない戦略を持って臨めば、フォーム印刷業界は大きなうねりとなって来ると予感している。

印刷物の潮流の波は我々の所に来ているとの意識を持って活動して行きたい。今、我々に必要なことは、成長戦略と経営基盤の強化の２つだけです。成長戦略とは新しい製品開発、新しい商品開発、提案力の強化、受託体制の整備。経営基盤については財務内容を強化することで、徹底的な無駄の排除の実行です。

フォーム印刷業からかけ離れたことではなく、地に足のついたシンプルな目標を、皆さんと同じ土壌の中で新しい芽を育てて行くことで、フォーム印刷産業全体のパイの大きさに結び付けて行きたい。

委員会報告

●資材委員会
・７月度用紙事情について報告
・インドネシア産カットシートに係る不当廉売関税の課税に関する件

●業務委員会
・６月度月次計算報告
・特別講演会（６月12日開催）の報告
・夏季講演会（８月26日開催予定）の案内

●国際委員会
・６月度米国レポートの報告

●技術委員会
・Drupa2012・Xplor Internationalセミナー開催報告

●環境委員会
・環境委員会６月度活動を報告
・胆管がんに関する一斉点検結果の取りまとめ等についての報告（厚生労働省資料）

●市場調査委員会
・平成24年度版市場報告アンケート調査について

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。
（１）グリーンプリンティング認定工場一覧
（２）JAGAT大会2012特別講演会（６月22日開催）の報告
（３）業種別下請代金法・下請ガイドライン説明会

その他資料・ご紹介

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。
（１）「印刷産業における環境関連法規集（2012年度版）」日印産連書籍紹介
（２）「オペレータ教育用　基本から解る枚葉オフセット印刷技術」日印産連書籍紹介
（３）「未来を破壊する（Disrupting the Future）」書籍紹介

各フォーム印刷工業会からの報告

関東フォーム印刷工業会報告（瀬戸会長）

現在、関東は２支部の体制で活動している。企業の生き残り戦略として技術的協力や生産設備の共同使用の検討を進めているが、様々な障害もあり具体的な活動までには至っていない。しかし、このような芽を大事にして育てて行きたい。

８月にはフォーム工連の夏季講演会に併せて関東フォーム印刷工業会主催の夏季懇親会を椿山荘で開催する。例年通り関東会員のみではなく皆さんにご参加頂き、懇親を深めていただきたいと思う。

東北フォーム印刷工業会報告（佐久間会長）

少し時間が過ぎてしまいましたが、東北フォーム印刷工業会の40周年式典には、全国から多くの方々にご参加いただき、盛況に開催することができ感謝しています。今月の27日には労働衛生安全セミナーが仙台で開催されるので、同セミナーに参加後、役員会と納涼会を実施する予定。

８月末には40周年の記念としてウランバートル訪問旅行を行なう。笹氣前会長がモンゴルに高校を建てる支援活動を行なっていることと、私もモンゴルのマンホールピープルに対する支援を20～30年前から行なっていることもあり、今回の企画になった。

10月11日には持回り理事会を裏磐梯猫魔ホテルで開催いたしますのでご案内致します。

中部フォーム印刷工業会報告（杉山会長）

５月25日に平成24年度の定期総会、記念講演会、懇親会に70名が参加し開催した。講演会では、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏が「信長・秀吉・家康に学ぶ経営戦略」をテーマに講演した。９月には納涼の懇親会も予定している。

関西フォーム印刷工業会報告（溝口会長）

６月28日に大阪支部主催で私が講師になって「drupa報告会」を行なう。また、同日京滋支部でもモトヤ様の協力により「drupa報告会」を行なった。

６月14日から16日まで「JP展」が行なわれ、関西会員の方々とフォーム工連事務局から出展して、多くの方々に来ていただいた。

７月５日に、特別会員も参加されて28社65名が集まってビアーパーティを開催した。

８月１日に関西で開催される「印刷事業所における労働安全衛生対策セミナー」には全会員が真剣に受講するように通達を出してい

る。また同セミナーで配布される「印刷職場の労働衛生管理」を全会員に配布する事も検討している。

■四方社長からのJP展出展報告■

やまとカーボン社として初めて参加したが、出展内容はフォーム工連でワークショップを行なったjunaioを使用したARと、バーチャルスタジオを出展した。

ARについてはJP展への出展を境に大きな反響があり、ビックサイトで開催されたウエディング関係の展示会にもARを使用して招待カードを出品し、多くの問合せをいただいている。

書籍関係の大手出版社から学習参考書にARを使用致したいとの問合せがあり、数週間の間に具体的案件が持ち込まれている。

冒頭、櫻井会長から話があったが、新しい製品の開発が重要と思うとともに、皆さんで活用いただきたいと思うので、ARについて何なりと問合せ下さい。

西中国フォーム印刷工業会報告（太田会長）

化学物質からの健康障害防止対策についての会員からの聞き取りでは、ISO14001を平成12年に取得され、第１種２種の有機溶剤は使用されず、防毒マスクと有資格者一覧表の掲示を行なっていると報告があった。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。

「小谷副会長挨拶骨子」

本日が実質的な本年度の理事会スタートとなるが、櫻井会長はじめ皆さんから実りある報告をいただきました。冒頭櫻井会長からフォームには未来があり、発展する余地があるとのお話をいただいた。今、印刷業界全体で、インクジェットだ、デジタルだと言っているが、この分野で一番先行しているのは我々フォーム工連会員だと思う。インクジェットもデジタル印刷も間違いなく我々業界が先行している。

未来は我々が創造して行くことにもっと自信を持って良いと思う。

次回の平成24年度通常総会・第５回理事会

開催日　平成24年９月12日（水）

時　間　午後　１時30分より

場　所　ホテルニューオータニ「LAPIS 2」

を確認して閉会となった。

日本フォーム印刷工業連合会　平成 24 年度　第５回理事会議事要録

■平成24年9月12日（水）午後１時30分　ホテルニューオータニ「LAPIS 2」

■出席者（21名）

櫻井会長、小谷副会長、瀬戸副会長、玉田常任理事、池田常任理事、林常任理事、神崎常任理事、土屋常任理事、越智（大久保常任理事）代理、福田常任理事、杉山常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福武理事、石坂理事、北原理事、滝本理事、谷島（西川監事）代理、寺山監事候補、山口（専務理事事務局）

議　題（１）委員会報告

（２）日本印刷産業連合会等関連報告

（３）各フォーム印刷工業会からの報告

議　事　冒頭、櫻井会長の開会挨拶があり議事に入った。

「櫻井会長挨拶骨子」

私は今フォーム工連の会員に対して、何らかのプラスアルファー、皆の総合力が発揮できるような仕組み作りが絶対必要であると感じている。皆がハッピーになるにはどうしたら良いのか、色々な提案をして行きたい。フォーム工連としてセミナーや勉強会を開催しているが、これを活かしていかないと全く意味がなくなってしまう。もっと会の運営を活発化しないと、印刷産業の中でビジネスフォームがどのような位置づけなのか、新しい強さを創り上げて行かなくてはいけない。そのためには皆さんの英知を結集する必要がある。

当社には法務や企画を専門にやっている部隊もあるので、皆さんの要望により使用できるようにすることも考えている。皆で強さを発揮して行き、次の新しいツールを作って行くことを、皆で一緒になってやって行くことも必要であると思う。

私は長年印刷に携わっていて出来ないことが２つあった。１つは、日刊との切り口で印刷物を行なうこと。週刊も月刊も季刊も作れる。しかし、夜中の１時から２時に原稿を締め切ったら、翌日の朝６時に印刷物を納品するが、ただし新聞社に敵わない。もう一つは個広告の世界。当時はマスメディアでもの事を語る時代だったので、マスメディアで大量に刷って大量に配布することで印刷物を作り続けていた。この人にとって必要な情報をこの人だけに送っていくことが、当時の私の周りでは出来なかった。

しかし、今はできる。個人に対するパーソナルなバリアブル広告が可能になった。そこにビジネスフォームの勝機があるかも知れない。このような取り組みを皆でやっていくことも考えている。

委員会報告

●資材委員会

・８月・９月度用紙事情について報告

・潤滑剤の紹介について

●業務委員会

・７月・８月度月次計算報告

・夏季講演会８月23日に開催の報告

●国際委員会

・７月・８月度米国レポートの報告

●技術委員会

・技術委員会活動報告

・「THE-ZA」連続講座ワークショップ開催の案内

●環境委員会

・環境委員会8月度活動を報告

・レポート：「有機則・PRTR法に該当しない洗浄剤を使用した洗浄作業に挑戦する」

・厚生労働省からの速報について報告

●市場調査委員会

・平成24年度版市場報告アンケート調査について

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

（１）大阪府の印刷工場における疾病被（労働安全衛生総合研究所発行）

（２）JAGAT主催徹底討論「未来を破壊する」（８月27日開催）の報告

（３）「未来の印刷産業アピール論文」募集について

その他資料・ご紹介

（１）夏季講演会講師：坪田知己氏の著書紹介

（２）「JAGAT印刷産業経営動向調査2012」

（３）夏季懇親会・夏季講演会掲載記事コピー配布

各フォーム印刷工業会からの報告

関西フォーム印刷工業会報告（溝口会長）

８月に大阪支部で定例会とプチ勉強会を開催。省エネ法と具体的な省エネ事例として印刷企業先行事例の紹介を講師からいただい

た。11月に下請け法に関する下請けガイドラインの説明会を実施する予定。この説明会には他の印刷団体にも参加を呼びかけて行く。

来年の２月にデジタル印刷機用紙及びＩＪ用紙に関してのセミナーの開催を企画したい。

滝本副会長より

全印工連の2014年の全国大会は京都で開催することが決定されたので、フォーム工連の会員企業も参加されて応援をお願い致したい。

西中国フォーム印刷工業会報告（太田会長）

現在、西中国としての加盟会員は12社ありますが、その内の６社と面談を行なった。この結果、今後、東中国地区との連携を行なってはとの提案があったので、少し時間をかけて進めて行きたい。

九州フォーム印刷工業会報告（和田会長）

９月の末に理事会を開催して会員との情報交換を行ないたいと思っている。

今日の櫻井会長からも話がありましたが、地方の方が実行し易い面も多々あると思うので、団体の活性化の良い事例を九州で作っていきたいと思う。九州の集まりも、支店長や支社長が出席される会員もあれば、営業部長の会員企業もあるので、もっと上層部の方に出席頂いて、具体的な話ができる環境を、まず作りたいと考えている。

最後に瀬戸副会長より閉会挨拶があった。

「瀬戸副会長挨拶骨子」

関東からの報告を兼ねて挨拶を致したい。

関東では会社同士で技術や設備を使って行こうとの活動に対して、木万屋商会様が積極的に取り組んでいただき、関東の中で先頭に立って活動して頂いている。

冒頭に櫻井会長から、もっと積極的な団体活動の提案があったので、この機会に様々な議論ができる理事会にしていかなくてはならないと思う。来月は福島で開催する理事会で皆さんとともに考えて、より積極的な理事会にして行きたいと思う。

次回の平成24年度通常総会・第６回理事会（持ち回り理事会）

開催日　平成24年10月11日（木）

時　間　午後４時から

場　所　福島県　裏磐梯

猫魔ホテル「飛蛍」

を確認して閉会となった。

トピックス

日本印刷産業連合会「2012年9月印刷の月」記念式典開催

印刷功労賞に福田学氏、印刷振興賞に松尾富正氏、石坂満氏が受賞

第11回印刷産業環境優良工場表彰　奨励賞を東洋紙業習志野工場が受賞

（社）日本印刷産業連合会主催の「2012年９月印刷の月」記念式典が９月12日、東京・千代田区のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催され、日印産連10団体の会員、来賓、関係者など約600人が出席した。

第１部の記念講演では、朝日新聞社・政治担当編集委員の星 浩氏を講師に招き、「日本の政治のゆくえ」を演題に講演。星氏は、総裁選挙を目前に控えた二大政党の動向や思惑や、各候補者などについて、取材で得た生の情報を中心に講演した。引続き開催された記念式典では、主催者を代表して足立会長が挨拶され、大阪の校正印刷会社を起因した胆管がん問題についてふれ、「残念ながら会員企業への調査では、労働衛生面での対応が不十分であることが判明した。この現実を真摯に反省し、改善に向けた体制整備を進めていく」と、業界全体での取り組みを強調。日印産連が本年７月に立ち上げた労働衛生協議会において、労働衛生関連法令への理解を深め、遵法措置の徹底を図ることを盛り込んだ「健康障害防止対策基本方針」を策定したことを報告した。

続いて来賓を代表して挨拶した経済産業省商務情報政策局・永塚誠一局長は、「今年は、印刷産業の労働衛生面において、国民から大変厳しい目が向けられている。注目が集まっている今こそ、正しい理解を得るための重要な機会であると捉え、印刷業界全体を挙げて、信頼回復と社会的地位の向上に向け、一層の積極的な活動を展開してもらいたい」と、早急な改善策の実行を強く呼びかけた。

式典の閉会の挨拶では日印産連櫻井副会長が挨拶され、「公募ポスターのキャッチコピーは“印刷は、将来何が出来るようになりますか？”であるが、作者の隠れた意図は“印刷に将来があるのでしょうか？”との問いに私は思えてならない。かつて、印刷と文化は表裏一体であった。私も印刷を通して文化を変えられることが楽しかった。今もう一度、印刷と文化をくっつける取り組みをしていかねばならない」と熱い思いを語った。

日印産連表彰では印刷功労賞12名、印刷振興賞16名が受賞を受け、日本フォーム工連からは、印刷功労賞に福田学氏、印刷振興賞に松尾富正氏、石坂満氏の３氏が表彰され、受賞者を代表して福田学氏が演壇上で表彰を受けた。

第11回印刷産業環境優良工場表彰では、経済産業大臣賞を含めて17社工場が受賞され、日本フォーム印刷工業連合会からは、東洋紙業（株）習志野工場が奨励賞を受賞された。

櫻井副会長　閉会挨拶

2012 年９月印刷の月式典

印刷功労賞

福田　　学　氏
関東フォーム印刷工業会
副会長
日本フォーム印刷工業連合会
常任理事
三郷コンピュータ印刷株式会社
取締役会長

（推薦理由）
平成９年に日本フォーム印刷工業連合会理事に就任し、15年にわたり常任理事、そして、平成12年からは関東フォーム印刷工業会の副会長の要職を務め、常に先頭に立って業界の振興発展と地位向上に大きな役割を果たした。さらに、平成９年から14年にわたり、公正取引推進委員会の委員長として、独禁法、下請法等のコンプライアンスの啓蒙に大きく寄与されました。

印刷功労賞をいただいて

この度、９月の印刷の月にあたって、印刷功労賞をいただきました。誠にありがとうございます。まさか私がいただけるとは思ってもいませんでした。

昭和32年から印刷に関わり、尺貫法の時代から55年間、印刷一筋にやってまいりました。最初は活版印刷、34年からは、レジフォーム印刷、ビジネスフォームと、フォーム印刷の草創期から凸式印刷一筋に携わって来たことへのご褒美かと有難くいただきました。

大変面倒な作業を必要とした亜鉛凸版の印刷を経験して、昭和40年代に入って液体式樹脂凸版印刷時代へと移り、40年代後半には厚み精度の高い固形の樹脂凸版へと進化しました。凸印刷に惚れて、機械の研究と製版の研究に没頭したのは、この頃からです。0.5ポイントの漢字、120線の0.5％のアミ点からベタまで、ハイライトからシャドウが綺麗に刷れるようになり、しかも、2,000インチ（50メートル）印刷が可能な機械に仕上がりました。

一方30年代後半だと記憶していますが、ビジネスフォーム印刷も、凸式印刷から簡単に寸法出しができ、亜鉛凸版と比べると綺麗に印刷できるオフセット印刷へと大半が移行して行きました。また、用紙もワンタイムカーボンを上質紙に挟んでいたものから、裏カーボン、ファインコピー、ユニコート、ノーカーボンなど便利な紙が開発されました。50年の間に世の中が急激に変化し、デジタル印刷の出現と同時に影が薄くなり、印刷分野でもグーテンベルグのプレス時代がデジタル印刷時代にとって代わろうとしています。

しかし、凸式印刷はオフセットの真似が出来ない良いものを持っているので、特長をお互いに活かしながら、印刷業界の発展に貢献したいと思います。

三郷コンピュータ印刷（株）　福田　学

印刷振興賞

松尾　富正　氏
中部フォーム印刷工業会
前会長　顧問
日本フォーム印刷工業連合会
元常任理事
小林クリエイト株式会社
取締役

（推薦理由）
平成18年に日本フォーム印刷工業連合会理事に、翌年には常任理事に就任。平成19年からは中部フォーム印刷工業会会長の要職を務め、東日本大震災の影響により製造業中心で難しい状況下にある中部経済圏にあって、会員の結束を図り中部フォーム印刷工業会の運営に大きく寄与されました。

印刷振興賞を受賞して

私が日本フォーム印刷工業連合会の活動に初めて携わったのは、平成18年で日本フォーム印刷工業連合会の理事に就任した時からです。

平成19年４月に中部フォーム印刷工業会の会長に就任し、正式には６月から日本フォーム印刷工業連合会の常任理事として足掛け5年間に渡り中部の代表として活動してまいりましたが、その間には原紙の大幅な値上げ、リーマンショック、東日本大震災と矢継ぎ早に業界全体として厳しい状況が続いたことを鮮明に覚えておりますし、現状も上記現象によるお客様のペーパーレス化の潮流の流れは変わっておらず、業界全体として今後も中々明るい将来を見通せない情況に変わりがないことを痛感しております。

その状況下で業界として、今後どう活路を見出すかは個社努力も勿論ですが、一方では日本フォーム印刷工業連合会として、会員各社へ方向性を一つでも多く示していくことが責務ではないかと考えます。現在　業務委員会のメンバーとして微力ではありますが、少しでも業界に対して貢献出来るように努力する所存であります。

小林クリエイト（株）　　松尾　富正

石坂　　満　氏
関東フォーム印刷工業会
理事
株式会社木万屋商会
顧問

（推薦理由）
平成16年に日本フォーム印刷工業連合会理事に就任し、８年にわたり要職を務め、自社においてはＧＰ工場認定作業への準備や、導入設備の紹介等、常に新しい取り組みにチャレンジされ、日本フォーム印刷工業連合会の様々な施策を先頭に立って実践され、団体運営に大きく寄与されました。

印刷振興賞受賞に感謝

今回の受賞について、突然の内示で本当に驚きましたが、辞退することも失礼だと考え、喜んで受賞させていただきました。

折しも今年は、木万屋商会が創業から40年目を迎え、10年間務めた社長を降りたところでの嬉しいサプライズでした。

私は社員のみんなに、次のようにこの受賞を報告しました。

『この栄誉は石坂個人のモノではなく、たった30余人の中小零細企業の会社が、日常できる限りの自助努力で、PAGE2010の展示会に出展したり、今年はGP認定工場にチャレンジしたり、いろいろな行動の一環を「貧者の一灯」の働きとして、推薦された方が過大に評価してくださった。くれぐれもこの受賞を慢心することなく、謙虚に誠実に地道に、得意先さまに喜んでいただき、同業他社さまの「他人のモノは盗らず」を肝に銘じ、日本フォーム印刷工業連合会に所属させていただいている事に感謝し、団体のために、ますます協調性を発揮してまいりましょう』と話しました。

重ねて本誌をお借りして、自社の社員全員と、フォーム工連事務局及びご推薦頂きました方々に、心より感謝を申し上げます。

株式会社木万屋商会　相談役　石坂　満

平成24年度　第11回印刷産業環境優良工場表彰
日本印刷産業連合会奨励賞　東洋紙業株式会社 習志野工場

この度は第11回印刷産業環境優良工場表彰におきまして、社団法人日本印刷産業連合会奨励賞の受賞を賜り、誠にありがとうございました。

2007年に神奈川県大和市にある横浜工場が受賞して以来、習志野工場は東洋紙業としては２工場目の受賞となります。

当社は1937年の創業より、商業印刷を中心にビジネスフォーム、情報処理サービス、出版、包材・POP、ホームページ制作等を手掛ける総合印刷会社として今日に至っております。

習志野工場は1991年にＪＲ京葉線の新習志野駅と海浜幕張駅のほぼ中間の準工業地帯に建設致し

ました。当初はオフセット輪転印刷機を導入し商業印刷工場として操業を開始しましたが、2003年に北区王子にありましたビジネスフォーム印刷工場の設備を移転、新たに情報処理業務も３階部分で展開するようになり、オフ輪商業印刷部門が撤退した後、建屋2階部分の増床工事を行ない、2011年９月に情報処理サービスの専用工場として生まれ変わりました。

習志野工場では、従業員の安全確保と作業環境改善、製品品質の維持向上、情報セキュリティの維持改善の３つの課題に取り組み、それぞれを統合的に運用してお客様のみならず周辺地域に対しても安全、安心を与える工場を目指しております。

工場内の設備におきましては、安全性を重視した観点から水性インクを使用出来ることに注目し、昨年世界最高速のフルカラープリンターを導入。お客様により早く、より安く、安全で高品質な製品を提供出来るように心がけております。

産業廃棄物におきましては、リサイクル化の促進及びVOC低減への積極的な取り組み、産業廃棄物の『細分化分別』を実現しております。今まで産廃として廃棄していたものを再度見直し、少しでも資源としてリサイクル可能なものを分別し、環境改善および資源の有効活用を推進しております。

また印刷機湿し水の脱ＩＰＡ化と代替品への100％移行を達成し、第２種有機溶剤を含まない洗浄液への切り替えも実践してまいりました。

工場内の照明設備におきましては、天井蛍光灯の一部のＬＥＤ化や、通路での人感センサー採用、照明のスイッチ周辺や空調パネルに『節電』表示を掲示するなどの省エネルギーへの対応に取り組んでおります。

また自然エネルギーにも着目し増床工事に併せて風力発電装置を設置いたしました。この風力発電で得られた電力で工場内照明の一部を賄うことができております。

認証関係におきましては、1997年にISO9001、2004年にISMS27001、2011年にISO14001をそれぞれ取得し、全従業員が一丸となって品質及びセキュリティ、環境に対する高い意識を持つようになりました。また毎月1回工場周辺の清掃活動を実施し、常に清潔な職場環境と近隣周辺の環境を保つよう心掛けております。

工場内の環境におきましても、２Fの作業エリア全体のバリアフリー化を実現し、身体の不自由な方の積極的な受け入れ態勢を確立させております。さらに情報セキリティ強化の一環として、工場内入退館時に際しては生体認証（虹彩認証）を導入して入館管理を行なっております。

今回の奨励賞受賞を励みに、これからもお客様の満足に応える製品作りと環境に配慮した模範となる工場を目指して参ります。また近隣周辺との環境調和にも取り組み、環境優良工場の名に恥じないように環境改善に取り組んでまいりたいと思います。

朝日卓之 東洋紙業株式会社社長

東洋紙業㈱習志野工場　写真

関東フォーム印刷工業会

夏季講演会を印刷図書館との共催で開催

８月23日、目白の椿山荘で夏季講演会を開き、メディアデザイナーで著述家の坪田知己氏を迎えて「The Communication 情報革命とは何か？」と題して、時代が求める情報伝達とコミュニケーションの本質とそのゆくえについて考えた。

坪田氏は日経新聞社でマルチメディア局企画開発部長、電子メディア局次長、日経メディアラボ所長などを歴任し、「日経電子版」の基本設計を手がけ、その豊富な経験からメディアとコミュニケーション技術に深い造詣を持つ。以下、講演要旨を紹介する。

コミュニケーションとは、人と人とがお互いに声や文字などの情報媒体を通じて意志疎通を図ること。つまり、人間はメディアを使ってコミュニケートする。大切なのは伝える情報の正確さ、コミュニケーションがしっかりと成立すること。メディアは進化し、その技術は今、ほぼ完成の領域に達した。

しかし、「ワーテルロー・スクープ」の例に見るように、情報の価値とは、速さではない。ニュースをいち早くキャッチした人が得をするわけではない。インテリジェンスとポジションのある人が手にしてこそ価値がある。時代は積層化する。テレビもラジオもなくならない。過去の文明を下敷きにしながら進化していく。メディアの変遷をたどるとマスメディア独占の１方向型の“１対多”の時代だった。そして　１人１台パソコンの“多対多”のWebの時代になり、facebookや mixiに代表される“多対１”の時代に移りつつある。

“１対多”は、その人のためのエージェント・メディアの構造といえる。情報コミュニケーションにおけるメディアの形は、ブロードキャスティングからブロードキャッチへ、１方向型のピラミッド構造から目的志向共同体（MOC）、支配から支援へ、コマンド駆動からビジョン駆動へと変化している。

講演する坪田知己氏

情報化の本質とは感性が基礎であり、結局、人間開発。人間にとって情報力とは表現力である。情報は関係の中を伝わり、情報によって関係が操作される。情報は関係を創造でき、深めることができる。メディアの前提にメッセージという情報がある。

すでにメディアの時代は終わった。今の時代は人間がメディアに依存しすぎた結果、あまりにもメッセージが粗末になっている。大量情報の大爆発が起きている。やはり良い情報を得るには人に聞くのがいい。

例えば、facebookでは必要な情報が簡単に得られる。その信頼性の担保がこれからの課題である。時代は公的依存社会から共助型社会へと移りつつある。情報環境はマスメディア的秩序からグーグル的な技術至上の秩序を経て、これからは技術を人間が統御する秩序へ、Webから4次元へ進化していく。そうした時代、どうメッセージに磨きをかけるのか。そのために情報の「整流器」を作るのが私の欲望である。

日本印刷新聞記事より

関東フォーム印刷工業会

平成24年度夏季懇親会を開催

関東フォーム印刷工業会（瀬戸良教 会長）は8月23日、日本印刷図書館と共催した夏季講演会に引続いて、夏季懇親会を目白・椿山荘で開催した。

冒頭の挨拶で瀬戸会長は、ロンドンオリンピックで日本選手が団体競技で良い成績を残したことにふれ「フォーム業界は印刷業界全体からすれば大きな組織ではないが、厳しい状況で業界が変化をしていくなかで協力し、互いの技術と知恵を出し合って成果を分かち合うことが実現できれば、将来を維持できるのではないか。今日はそういう仲間づくりの意味がある」と協力強化の必要性を訴えた。

来賓として出席した日本フォーム工連の櫻井醜会長は「欧米では会議は短時間で終わるが、日本では皆と同列にという価値観があり、本音の会議ができない。メディアが変化している時代には、こうした雰囲気を変えていかなければならない。今日は少しでも互いにコミュニケーションをとれたらと願っている。私もいろいろなアイデア披露するし、皆さんの会社のいいところも披露してもらい、双方向でコミュニケーションをしていきたい」と、積極的な交流を呼び掛けた。

また、日印産連を代表して草野司朗 専務理事は、印刷市場の縮小に対して改善対策のスピードアップを図っていくこと、印刷事業所における胆管がん発症の問題については明確な対応を打ち出していくと述べ、各社でも積極的に取り組むことを要請した。

玉田健治 副会長の発声で乾杯を行い、歓談に入った。

東北フォーム印刷工業会

創立40周年記念旅行

東北フォーム印刷工業会（佐久間信幸 会長）は８月29日より５日間、同会の40周年記念でモンゴル国へ旅行した。記念旅行には会員および関連業者合わせて７名が参加した。

【参加者】

佐久間信幸会長、大門一平副会長、笹氣幸緒監事、山田政彦理事、

特別会員：増田孝浩（富士フィルムグラフィックシステム㈱）、田中誠（㈱誠文社）、事務局：瀬谷慎

モンゴルへ行った理由

40周年記念旅行の行先を検討し始めた昨年夏の会合で、大門副会長がモンゴルに行きたいと言い出した。実は笹氣監事はここ数年ウランバートルの新モンゴル高等学校へ紙を送る支援を続けていた。佐久間会長はJC時代にモンゴルのマンホールチルドレンの支援を行なっていたこともあるなど、それぞれの役員とモンゴルとの縁があった。しかもアメリカやヨーロッパ、中国等なら行く機会はいくらでもあるが、モンゴルへはこういう時ではないと行く機会がないだろうという意見もあり、とんとん拍子にモンゴルへの旅が決定した。

記念旅行参加者

モンゴル国の状況

モンゴル国の昨年の実質経済成長率は17%で、世界第１位だそうである。産業は主に畜産業と鉱業が中心で、現在モンゴル政府は金鉱や銅鉱や世界屈指の埋蔵量を持っているモリブデン、石炭等の開発を推進している。そして近年では、豊富な天然資源などを目的に外国からの投資が活発になってきている。

その高い経済成長率を背景に、首都ウランバートルは建設中のビルが数多く見られた。また自動車の数がものすごく多いため交通渋滞もひどく、ウランバートル市内はこの旅行の直前からナンバー規制（毎日順番で下一桁２つ（例えば１と６とか）の数字の車が通行できない）を行なっていたが、それでも市内の移動はとても時間がかかった。大気汚染も深刻で、原因は郊外にある火力発電所の煙や石炭による暖房、大量の車の排気ガスであり、実際に鼻をかむと黒っぽかったり、やけにのどが渇いたりした。ちなみに車の80%以上は日本車（主に中古車）という印象で、相撲人気もあり、日本に対する印象は良いものとなっている。

新モンゴル高等学校見学・入学式参加

今回の旅は旅行会社を通さず、笹氣監事が支援している新モンゴル高等学校のジャンチブ・ガルバドラッハ校長に相談して、スケジュールや宿泊先等を決めてもらったため、新モンゴル高校を毎日のように訪れ、校長先生や卒業生、先生たちにはガイドや通訳をしてもらったり、食事に招待されたりと、大変お世話になった。

新モンゴル高校は2000年秋に設立された。この高校を創ったジャンチブ校長は1963年生まれの今年49歳、中学校の教師をしていた1995年に日本の教育や人材育成の優秀さを学ぶべく日本への留学を決意し、山形大学で学んだ。最初は国費留学生だったが、その後私費での留学となり、妻や娘たちを日本に呼び寄せて生活したが、とても苦しい生活だったそうだ。当時朝は５時から新聞配達、夕方は５時から８時までが運送屋で荷物の積み込み、８時からスナックバーでのウエイターをして、帰宅は12時か１時。睡眠時間は、３時間か４時間という生活だった。

その後、山形北RCの推薦で米山記念奨学会の奨学生に選ばれ、東北大学教育学研究科博士課程に進んだ。奨学生に選ばれた半年後山形北RCの例会で「モンゴルに国際的にも通用する高等学校を設立したい」という夢を話したところ、その夢の実現に賛同してくれたRCのメンバーが1999年秋に「柱一本の会」という組織を発足して、学校建設計画が本格的に動き始めた。一人が柱を一本分ぐらいの協力をしましょうとい

新モンゴル高等学校

う趣旨の運動である。「年間一人当たり１万円」の寄付運動および、日本の学校で不用になった机や椅子、パソコンなどの備品、学校の教材などの支援もあり、2000年の秋に新モンゴル高校は開校した。

この学校はモンゴル初の３年制高校である。モンゴルの高校は通常は２年制で、小学校４年、中学校４年、高校２年、合計10年がモンゴルの教育制度である。これでは受験資格が得られず、海外留学ができない。新モンゴル高校ができたため海外の大学での受験資格が得られるようになった。その意味でモンゴルの教育改革にも大きく貢献している。

新モンゴル高校は、日本の高校をモデルとしてカリキュラムを導入した。そのため全員が制服を着て、給食もある。部活動もある。日本では当たり前のことだが、モンゴルではこれが人気の的だそうだ。

初年度入学生徒数は105名教師数８名で発足したが、現在は1,000名近くの生徒が在籍し、約80名の教職員が勤務している。

新モンゴル高校の教育理念は、国際的なレベルに見合うカリキュラムを導入して、卒業生に世界のどこの国の大学にでも入学できる学力を身につけさせ、将来は国際的舞台で活躍できる人材に育てることを目指し、実際卒業生の6割が海外の大学に留学している。

留学先は圧倒的に日本が多く、ロシア、中国、アメリカ、トルコなどへの留学も少なくない。

卒業生の中にはマサチューセッツ工科大学を出て Facebook,Inc. に勤めている人や、東京大学への留学生も複数いる。映画監督を目指している人や国連事務総長になるという夢を持っている人、将来ノーベル賞を取ると言っている人もいる。このようにたくさんの学生が、夢をもって勉学に励んでいるそうだ。

新モンゴル高校には銅像の台座のみがあり、そこにはこのように書いてあった。

「新モンゴル高等学校の卒業生の中で将来ノーベル賞を受賞した者、あるいは国際連合の事務総長となった者、モンゴル国の大統領となった者、またオリンピック優勝者となった者の名誉を永久に伝えるためにこの記念碑を建てました。常にこの世界を意識している本校卒業生のあなたはその１人になることを待ってます。頑張ってください」

この文章が滑稽に思えないほど、実際に出会った卒業生達は皆未来への希望にあふれ、「○○大学で○○学を学び、将来モンゴルのために○○の仕事をしたい」というはっきりと具体的な夢を話していた。目標を見失いがちの日本の若者に比べて、その意識の高さに驚きを覚えた。

９月１日には新モンゴル高校の入学式に来賓として招かれた。入学式は非常に華やかなもので、モンゴル各地から集まった新入生たちの喜びと希望に満ちあふれていた。日本大使館の参事官やモンゴルでは有名な俳優、与党の政治家などが来賓として招かれていた。入学式の間中、卒業生数名が我々のために通訳をしてくれた。在校生によるバンド演奏や歌の披露（なんとAKB48の曲！）、モンゴルの民族楽器「馬頭琴」の演奏等もあり、非常になごやかで楽しい入学式であった。

ADMON印刷会社見学

８月31日にADMON印刷会社を訪問・見学した。同社はモンゴル国で最も大きな印刷会社であり、印刷だけではなく出版も手がけている。

設備としてはKBA社のRAPIDA105 B全４色機や大日本スクリーン社のCTP装置が目立つ程度で、目新しいものはなかったが、同社の社長の話ではとても利益を得ているそうだ。世界の有名な本をモンゴル語に翻訳し、印刷・出版するのを大きな事業として展開していた。日本の有名な絵本「100万回生きたねこ」も翻訳したいと、社長は話していた。設備や技術に関しては日本の企業に及ぶものではないが、とても意欲にあふれ希望に満ちた会社だと感じた。

印刷工場内の見学

ADMON 印刷会社

「どんぐりの家」上映会

８月31日の夕方より、日本映画「どんぐりの家」のモンゴル翻訳版の上映会が新モンゴル高校のホールにて行なわれた。この映画は多重障がい者の問題を取り扱った作品で、耳が聞こえない上に知能障害がある人たちと、その親が困難を乗り越えて自立していく話である。新モンゴル高校の日本語学習のためのサマースクールで教材として取り上げられ、感銘を受けた新モンゴル高校の留学生達が、この映画の製作者の中橋真紀人 氏の許可を得てモンゴル語の字幕をつけるプロジェクトを立ち上げ、苦労して完成させた。上映会には障がい者を含めた多くの人たちが訪れ、感動の拍手を贈っていた。中橋氏もこの日の上映会のために駆けつけていた。

モンゴル国内の障がい者を取り巻く環境は非常に悪く、町を歩いているだけでも道路が穴だらけで車イスが通れない、車が多すぎて渡れないなど問題は多いそうだ。映画は今後モンゴル各地で上映される予定であり、この映画をきっかけにモンゴルの障がい者が少しでも住みやすくなることを願わずにはいられなかった。

宿泊・観光

モンゴルでは３泊したが、その１日目はテレルジ国立公園のゲルに宿泊した。ゲルは遊牧民が使用する伝統的な移動式住居である。ゲルの中はわりと快適で、簡易式のベッドの寝心地もなかなかだった。我々が泊まったのは観光客向けのキャンプだったが、それでも十分に遊牧民気分を味わうことができた。

観光は多くはなかったが、スフバートル広場、ザイサンの丘、ガンダン寺、自然史博物館などを見学し、モンゴルの複雑な歴史や文化を学ぶことができた。

宿泊や観光では、新モンゴル高校の先生や日本に留学している卒業生たちが交代で通訳やガイドをしてくれた。我々が東北から来たことを考慮して、秋田大学や福島大学など東北への留学生が多かったため、モンゴルだけでなく東北の地元の話題でも盛り上がり、とても楽しかった。別れの時には、日本での再会を約束した。

今回の旅を振り返って

モンゴルは現在発展途上の国である。未だに貧困にあえぐ人もおり、国の状況も安定してはいないが、国を発展させようというエネルギーが強くあり、日本の高度経済成長期とつながるものがあると感じた。特に新モンゴル高校の卒業生たちは希望にあふれ、それぞれの目標は違ってもモンゴルのために働くという共通の夢を持ち、それに向かって真剣に勉強していると感じた。我々７人はそれぞれ強く刺激を受け、これからの日本や自らの会社の将来のために、どのような目標を持ちどんな勉強をして何をすべきかと考えさせられた。とても有意義な旅であったと思う。

関西フォーム印刷工業会大阪支部

6月例会及び第32回プチ勉強会を開催

６月28日に大阪支部例会が、18社から21名が参加されて、JPビル８階で行われた。

日本フォーム印刷工連と関西フォーム印刷工業会の理事会報告のあと、胆管がんに関する各方面からの実態調査についての報告を行い、各会員がこの問題について真摯に受け止め対応することを話し合った。

プチ勉強会では「drupa 2012から見る印刷業の変化」と題して、関西フォーム印刷工業会の溝口会長から報告を行った。溝口氏は既に開催されたメーカー各社の「drupa 報告会」に複数参加され、各社各様の中から優れた報告書を紹介すると共に、自身の観点から臨場感のある“drupa”とこれからの印刷業について関係性、ネットワーク型に発展する今後のフォーム印刷の変化、世界的な印刷のアジア地域の位置付けなどについて述べられた。

「drupa 報告」の主要テーマは、①来場者全体で、役員クラスの占める割合が44.4％から50.8％増加、②中国の印刷関連会社の今後（246社出展11439㎡）、③設備メーカー間のコラボレーション、④ＶＬＦ（ベリーラージフォーマット）とギャンギング、⑤Ｌａｎｄａ社のナノグラフィーインク、⑥インクジェットヘッドのMem jet、⑦後処理機械とデジタル印刷機と連動、⑧デジタル印刷と他のメディアとの連動性、⑨シール・ラベル印刷でのデジタル印刷事業への拡大、⑩環境対応強化製品。

ビアパーティーを開催

７月５日に関西フォーム印刷工業会大阪支部恒例のビアパーティーが、梅田のスーパードライ梅田店で、会員及び特別会員を合わせて28社から65名が参加され、元気に語り合いました。

８月例会及び第33回プチ勉強会を開催

８月30日に大阪支部例会が、16社から17名が参加されて、JPビル８階で行われた。

日本フォーム印刷工業連合会と関西フォーム印刷工業会の理事会報告のあと、株式会社ドェルアソシエイツの経営企画室長、徳田和男氏を講師に迎え、「省エネ法と具体的省エネ事例」というタイトルでお話しいただいた。

コスト削減のための省エネルギーの手順は、①現状のエネルギーを計測し「見える化」を行う。②建物に入ってくるエネルギーを削減する。③使用するエネルギーを削減する。④運用をコントロールする仕組みを導入するという順序で実施する。具体的項目としては、①デマンドモニターの設置。②照明のLED、インバータ化。③空調機の追加型コンデンサー。④ファンのインバータ化。⑤ガラスコーティング。⑥屋根、

壁断熱塗料塗布。などが考えられる。売上が伸び悩む環境下でコスト削減を推し進めなければならないが、電気料金は益々上がる傾向にあるので、省エネコンサルタントのアドバイスと投資対効果分析などを参考に、早期に対応するべき課題と考える。

中部フォーム印刷工業会

平成24年度定期総会・講演会・懇親会を開催

中部フォーム印刷工業会（杉山悟会長）は９月19日午後５時から、９月定例理事会を開催し、日本フォーム印刷工業連合会理事会の報告を会長からいただいた後、市場動向等の情報交換と11月開催の研修会の開催時間等の確認を行った。

また、杉山悟会長が小林クリエイト株式会社の社内異動により役職変更の報告があった。理事会終了後、松尾顧問にも出席をいただき、日本印刷産業連合会「印刷振興賞」受賞のお祝いを兼ねた理事懇親会を、名古屋駅前のミッドランドスクエア内のイタリア料理店で開催し、おいしいワインと料理を堪能し、理事各位の親睦を深めました。また、中部フォーム印刷工業会主催の研修会は11月13日（火）に名古屋駅前の会場で開催を予定しております。

九州フォーム印刷工業会

９月定例理事会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は、9月27日（木）、福岡において平成24年度「第２回理事会」を10社から11名の会員の方々にお集まりいただき開催した。

理事会においては、和田会長より日本フォーム印刷工業連合会の理事会にて報告された事案の説明や、フォーム印刷業界が抱える課題について、フォーム工連もしくは地方の工業会が対応できることを題して、各会員それぞれの意見交換が行われた。

この理事会で出された意見は後日とりまとめ、事項により実行していくことで理事会を閉会した。

国際委員会
■北米印刷事情レポート（2012年7月～ 9月）

出展メーカートップが俯瞰したdrupa 2012

drupaにおける出展メーカーからの記者会見は各種イベントの例に漏れず、新製品発表や新技術の紹介が中心であった。しかし今回は、営業的な視点を離れて、業界の動向や印刷市場の状況について、より幅広い解説を行なう場面がしばしば見られた。

ハイデルベルグ社のCEOベルンハルト・シュライヤー氏は、「印刷会社にとって生産部門の経済性を極めることは、優れた印刷能力と同様に必要不可欠であり、当社の顧客は、コスト効率を求めること無しには、生き残れないであろう」と述べた。さらに、枚葉のトップメーカーであるハイデルベルグとしても、印刷会社が取り組むソリューションの一角をデジタル印刷が占めることを認める発言をしているが、いくつかの条件を付けている。「確かにデジタル印刷は現実的な未来の技術であり、成長を続けることが予想される。しかし、印刷会社にとって、最優先事項はコスト効率を高めることである。デジタル印刷に今できることや、もうすぐ可能になることのすべてが、コスト効率が良い訳ではない」と述べている。そして、ハイデルベルグが提供するデジタル技術（リコー製トナー式デジタル印刷機のOEM機や自社製のパッケージ印刷向けライノプリントLインクジェットシステム）は、コスト効率の定義に適っていると宣伝した。

オーバーホールサービスやアップグレード・サービスについて、マンローランドWEB社の販売、マーケティングおよびサービス担当執行副社長のペーター・クイズレ氏は、印刷会社の設備更新のペースはメーカーが望んでいる水準ではないことを認め、その結果、「当社の印刷機は、過去よりはるかに長い期間にわたって、生産を担わざるを得なくなっている」と述べた。

ランダ社の創立者であるベニー・ランダ氏は、Indigo印刷技術の発明者として1993年に述べた「デジタル化できるものは、すべてデジタル化されるであろう。印刷も例外ではない」との予言を繰り返した。ただし、20年近く経った現在でも、印刷されたページ数全体に占めるデジタル印刷の割合はわずか２％前後に過ぎないとも述べた。ランダ氏は、デジタル印刷がオフセット印刷の持つ全ての利点（メリット）に応えるまでにならない限り、デジタル印刷のシェアは拡大しないだろうとしている。そして、新しいナノグラフィック印刷システムによって、この目標を達成したいと考えている。「最終的に、印刷メディアはデジタルメディアに取って代わられるだろう」とランダ氏は言い切っている。しかし、同時に「最終的に」そうなる時期がかなり先であることも明言している。「我々にとって本当に重要なのは、そうなるまでの期間の今後20年間の見通しである」。この期間中、デジタル印刷がシェアを伸ばす「素晴らしい」機会はまだ存在している。ランダ氏によれば、商業印刷分野にはまだデジタル化の手が及んでいない」そこにランダ社とそのパートナー３社（小森コーポレーション、ハイデルベルグおよびマンローランド・シートフェッド社）が開発を進めるナノグラフィック印刷の突破口がある。

「drupa2012（第15回）は、不安定な経済状況の下で開催された」とKBA社のクラウス・ボルツァ-シューネマン社長兼CEOは述べた。さらに、「世界のオフセット印刷機の販売額は、2007年から2011年までの期間に約90億ユーロから約45億ユーロに半減した。KBA社その他オフセット機メーカーの販売台数は「2009年の底」から小幅に上昇しているものの、経済危機以前の水準には戻らない」と言う。同氏が示したスライド資料によれば、オフセットは引き続き印刷物生産の60％前後を占めているが、デジタル印刷が急速に伸びており13％のシェアを占めている。同氏は、業界では新たな競争が始まろうとしており、特にスモールフォーマットの分野でオフセット印刷がデジタル印刷に大きくシェアを奪われているという。KBA社は枚葉機と輪転機の両方を手掛けているが、今回のdrupa2012では連続紙用高速インクジェット式デジタル印刷機RotaJET 76を出展した。

「前回の“drupa”は業界の絶頂期に終止符を打つもので、その直後から４年間印刷不況が始まった」と、ゴスインターナショナル社のヨーケン・マイスナー社長兼CEOは述べた。2008年の“drupa”は、輪転機メーカーである同社にとって独立系企業としての最後の出展であった。２年後に同社は上海電気グループに買収された。しかし、ゴス社が米国で唯一の輪転機メーカーであることに変わりはなく、ニューハンプシャー州ダーラムの工場では新しいサンデー Vpak 3000およびサンデー Vpak 500パッケージ輪転機を生産している。

“2012年drupa”の記者会見で、政治哲学者の最も有名な発言のひとつ「ある妖怪がヨーロッパを徘徊している」というカール・マルクスの共産党宣言の冒頭が引用されるとは、誰も夢にも思わないだろう。これを引用したのはコニカミノルタIJの大野 彰得社長で、“drupa”における印刷の将来に関する多くの議論の中に、インクジェットが落としている影響について示した。大野社長は会場でプレビューを行ったカラーインクジェット印刷機KM-1によって「産業インクジェット革命」の最前線に打って出ると述べた。

drupa2012 におけるデジタル印刷設備

“drupa 2012”におけるデジタル印刷設備の展示において、市場と関連付けて考察したい。

主なトレンドは、B2枚葉デジタル印刷機市場、次世代液体トナー機、ランダ社のナノグラフィックプリンティング技術とその印刷設備である。ある意味、これらはすべて同じ市場をターゲットにしている。

B2デジタル機の分野では、ベンダー各社が我先に最新トレンドに飛びつこうとしているような状況を目の当たりにした。新しいB2デジタル機はすべて技術展示であって、発売はある程度先になるとみられた。これら製品の大半が出荷可能となり市場が実際にスタートするのは、2014年のIPEXの後になるとみられる。富士フイルムと大日本スクリーン製造の製品以外でIPEX以前に運用可能になると筆者が予想しているのは、HP Indigo 10000だけである。

ただし、これら多くのB2デジタル機に対して、大きな市場があるかどうかは疑問である。大半のB2デジタル機に見られる問題は、これらが真のデジタル印刷機ではなく、実際にはインクジェットヘッドを搭載したオフセット機のようであることだ。真のデジタル印刷機は、生産ユニットの統合化が可能でなければならない。例えば、複数のフィーダー（給紙部）から様々な種類の用紙を同時に取り扱うことや、インライン後加工システムとの統合、自動両面印刷が可能であることを意味する。これらの機能なしではパーソナライズした印刷はできない。実際のところ、準備時間短縮に対応した無版印刷機や、アナログ印刷機は既に存在している。新しいB2枚葉デジタル印刷機の中では、HP Indigo 10000とデルファクス社 Elanだけがこうした条件に適合しているようである。もう一つ考慮しなければならないのは、B2（デルファクス Elanの場合はSRA2）が本当に必要なのか、それとも新しい36インチロングシートフィーダーのオプションを備えたコダックNexPress SX3900の拡張フォーマットがニーズを満たすのか、という点である。同機種は、本当の意味で高品位のデジタル印刷機である。

B2デジタル印刷機を既存のオフセット印刷機の本体を基に構築することは、優れた用紙搬送と精度の高いレジストレーションを実現する上でも、更に、新しく本体を開発する必要がないという点でも極めて良いアプローチであるが、デジタル印刷機として必要な機能に関しては、諦めなければならない点が多々あると考えられる。もし、新たなサプライヤーが富士フイルムJet Press 720の状況を見ていたならば、こうした限界について多くを学べたはずである。こうした理由から、小森コーポレーションImpremia IS29、およびコニカミノルタKM-1、リョービとミヤコシが共同開発したデジタル印刷機は、富士フイルムのデジタル機よりもはるかに高速ではあるが、機能が不足していることの理由で、市場では苦戦すると予想される。

デジタル印刷機が真のデジタル印刷機として機能するならば、保有することに意義がある。もし準備時間がゼロだとしても、同サイズのハイテクなオフセット印刷機よりもランニングコストが高いのであれば、メリットが余りないと筆者は考える。例えば、新しいハイデルベルグSM XL75

AnicolorやPresstek 75DI、あるいはその他の準備時間が極めて短く、紙の無駄が極めて少ない、パーフェクティング（両面印刷）の機能を持った４色以上の印刷能力で、しかも、低いランニングコストで、B2デジタル機より少なくとも２倍の印刷速度を持つ印刷機と比較した場合、デジタル印刷機の高いコストを立ち上がり時間の短縮だけで正当化できるだろうか。

オフセットと同等のデジタル印刷機に現実的な用途がないと言っている訳ではない。インライン仕上げが適さない片面印刷の市場がある。その例として　大型ポスターや複雑な折加工が必要な印刷物があり、言うまでもなくフォールディングカートン（折りたたみ箱）市場もある。現時点では、フォールディングカートン市場におけるデジタル印刷のシェアは小さいが、パーソナライズが求められない小ロットのカートンの需要とともに成長すると予想される。

この可能性を示すものとして、筆者は大日本スクリーン製造のTruepress JetSXのデモンストレーションで示された能力に感銘を受けた。このデジタル印刷機は、他社のB2デジタル印刷機と異なり、回転ドラムを使用せずに、まっすぐな用紙搬送径路を持っている。同社のデモンストレーションでは、ギフトや販促市場向けにあらかじめ筋入れ・抜き加工されたフォールディングカートンへの印刷を実演しており、これは印刷後に追加作業無しにカートンを作ることができるものであった。これは、実に興味深いギフト分野のアプリケーションであり、あらかじめ筋入れ・抜き加工されたフォールディングカートンは、まっすぐな搬送径路でなかったとしたら実現できなかったであろう。

“Drupa 2012”における最大の話題は、ランダ社のナノグラフィック技術と一連のデジタル印刷機であった。ランダのアイデアを信じるHP Indigoの顧客を中心とした多数の印刷会社は、今後２年以内に導入可能となる見込みのランダ型デジタル機に列をなして手付金を支払った。ランダ社によるアプローチは実に印象的であったが、その鍵を握るのはナノインク用のナノサイズの顔料粒子ではなく、印刷面に転写する前にインクから水を取り除く技術であろう。このインクは極めて重要ではあるが、もし必要なら他のサプライヤーも同様のナノサイズの顔料粒子を作ることは可能だと考える。

問題は、ベニー・ランダ氏の主張通りにナノグラフィックプリンティングが、オフセット市場のメインストリームに取って代わるかどうかである。ランダ氏が言うメインストリームとは、印刷枚数が１万枚以上を意味している。この点については、先述のように、こうした最新のデジタル印刷機と最新のオフセット印刷機と比較する必要があると考える。

Web to print業界における大手企業の一部を調べてみると興味深い。ここで考察の対象としたのは、ドイツのVistaprint社、ドイツのFlyeralarm社、そしてイタリアのPixartprinting社である。これらの企業はデジタル印刷も利用しているが、生産の大半は高度に自動化されたオフセット印刷機を利用している。最近、Pixartprinting社は、小森コーポレーションのLithrone GL840 P8色B1機を２台設置した。

Pixartprinting社は、次のような成果を得たと述べている。「新しい小森の印刷機が記録したデータは、控え目に言っても驚くような数字である。印刷調整に要するのは20枚、1時間当たり12ジョブ（台）を行なっているが、まもなくそれは15ジョブに達する見通しである。１カ月当たりの印刷量は1,000トンで、製品となる印刷物が出るまで２分とかからない。また、デジタル印刷機との損益分岐点は、ポスターで17部、チラシとパンフレットは150部と、実に驚くべきものである」。

ランダ社のデジタル機が市場で販売されるまでには、まだ多くの作業が必要である。Indigoが直面し、改善に時間を要したいくつかの問題も既に見受けられた。これらは、素晴らしい平網や均一なベタを印刷する能力である。“Drupa2012”でランダ社が作成したサンプルは、強烈で鮮やかな色彩を使った多くの部分がハーフトーンの画像で、初期のIndigoのサンプルと良く似ている。ランダ社のデジタル印刷機は、網や小さな文字、画像、装飾等の印刷に関して、高度に一貫した品質を示す必要があろう。ランダ社には、今日のIndigoを育てた経験を持つ優れたチームがあることから、

こうした課題を達成できると筆者は確信している。ランダ社の技術は、同社自身が実践するにせよ、小森コーポレーション、マンローランド、あるいはハイデルベルグといった提携会社を経由するにせよ、市場に大きな影響を及ぼすと考える。

ランダ社の技術は、新たに登場した次世代液体トナー式デジタル印刷機という別のライバルにも直面する。液体トナー機が優れていることは、液体トナー機であるHP Indigoの極めて高品質の印刷物によって既に証明されている。しかし、HP Indigoは複数のエンジンで順番に印刷するのではなく、全色を一つのエンジンで印刷する必要があるため、速度の面で重大な限界がある。また、揮発性のトナーキャリアを蒸発させる乾燥（融合）プロセスが必要であり、現在世界のほとんどの製紙工場で利用されている脱墨処理ではHP Indigoで印刷された紙のリサイクルは難しいという課題もある。

オセやザイコンの液体トナーに関する新しいアプローチでは、これらの問題は回避されている。ミヤコシは取り組みの概要を示していないため、その取り組みについてコメントすることはできない。こうした新しい液体トナーのアプローチによって、HP Indigoに近い印刷品質と高速インクジェット機並みのスピードが達成されると言えよう。ただし、その詳細や、どの程度優れたものになるかについては、2014年のIPEXを待たなければならない。

混乱に向かって走れというのが適切な助言である

ある業界に混乱が見られる時、顧客のニーズと競合企業の先を行くために混乱に向かって走るべきであると、私は常に考えてきた。これは「自分を廃業させ得るものに投資する」戦略と呼ぶこともできるとジョー・ウェブ博士は言う。

それは、成功報酬で生計を立てる弁護士に関する古いジョークに由来する。彼らは、不幸な状況を探し求めて、警告灯を点けてサイレンを鳴らしながら疾走する救急車をキャデラックで追いかけることから「アンビュランス・チェイサー（救急車の追っかけ）」と呼ばれる。コンサルタントも、時に同様の評価を受ける。何か特定の行動をとらない限り皆の事業が立ち行かなくなると主張しながら、印刷業界をうろついているからだ。お決まりのアドバイスの一つが「変化を受け入れよ」である。その暗に意味するところは、活版印刷からオフセットを経た無数のデジタル機器へのシフトや、組み版から写真植字を経たデスクトップパブリッシングへのシフト、そして　その他諸々の状況にもかかわらず、印刷業界は変化を嫌うという非難である。

ここで共通する特徴は、混乱である。技術のシフト、顧客の好みの変化、異なる事業環境といったものは、すべて何らかの市場の再評価と、先を見越した最善の対応の決定を必要とする。混乱したまま走り回ってはいけない。そうではなく、混乱に向かって走り、解決策を提案するのだ。

産業が過渡期にある時は常に、その結果として生じる混乱によって、事業の意思決定が一層困難になる。時には、事業慣行を若干変える必要が生じる。改変の範囲が大きく、より大きな措置が必要になる場合もある。経営者が、潔く古いやり方を止めて、効率的に事業の新局面に入る方法を見つけなければならないことも少なくない。自社製品の需要が拡大している時は常に、こうした変化への対応は容易である。しかし、需要が後退している時は、すんなりと撤退したり参入したりすることが許されない状況に直面する。修羅場と化す可能性もある。

先行きが不透明な状況、あるいは前途にある課題の重大性を多くの企業が否定している状況で対応策を探すと言う点で、混乱に向かって走ることは、起業家精神の背後にある思考と同類である。

私は最近、印刷についての最大の誤解を三つ挙げるとすれば何か！そうした誤解を改めるために業界関係者は何をすれば良いか！という質問を受けた。

マーケティングに携わる者として、私は常に、最も重要な誤解は業界の外ではなく、業界の中にあると考えて来た。ずっと以前に「Positioning: The Battle for Your Mind（ポジショニング：自分の心のための戦い）と言う本を読んで、マーケティングのゴールに達するためには、自分がターゲットとする対象が「真実、あるいは重要だ」と信じ

ているアイデアから始めることだという考えを持つに至った。

印刷業界関係者が「印刷物は必要不可欠である」「印刷物は基礎である」あるいは「印刷物は主要媒体である」といったことを口にするのが聞こえているが、それはコミュニケーションの本質と、今日のコミュニケーションが置かれた状況を否定するものである。「ポジショニング」で著者たちが説明するように、マーケティング担当者は製品プロモーション戦略策定の際、「アウトサイド・イン（外から中へ）」思考を行なわなければならない。しかし 「インサイド・アウト（中から外へ）」思考は、自分の関心事を最重要に位置づけるもので、長期的には機能しない。

コミュニケーションの当事者は、選択肢の多さに圧倒されてはいるものの、公私両面で印刷物の代替メディアを利用しているため、コミュニケーションの利便性と即時性が重要であることを確実に理解している。彼らの費用対効果の感覚には磨きがかかっており、すべてのメディアが同時にどう作用するのかをより良く理解するようになっていると思われる。印刷業界では、多くの人々が印刷物に注目し過ぎて、顧客の課題解決を十分に重視していない。こうした課題の解決策にしばしば印刷物も含まれるが、常に含まれる訳ではないであろう。我々は、業界として単に印刷物を弁護するのではなく、それぞれのチャネルの効果や、その協調方法についてもっと知識を得る必要がある。

先週のロイターの報道によれば、GM社は、効果が少ないという理由でフェイスブック向けの有料広告を取りやめることにしたという。これこそ、ソーシャルメディアには言う程の効果はない、という印刷物支持者が求めていた情報である。しかし、その詳細をウォール・ストリート・ジャーナルが報じている。確かにGM社はフェイスブック広告に投じた1,000万ドルの効果に満足していないが、今後　フェイスブック内の自社サイトのコンテンツ構築には3,000万ドルを投じる予定である。広告は効果をあげなかったが、GM社のフェイスブックにおける活動には効果があったのだ。

このGM社の決定は、印刷媒体広告向け支出の減少という10年来のトレンドの一例である。新聞のオンライン広告は、年間30億ドルを若干超える水準で横這いとなっている。５年程前、この数字は金額ベースで新聞広告の約７％であった。印刷された新聞広告は大幅に減少した一方、新聞のオンライン広告の金額が横這いであったことから、現在その比率は13％となっている。ソーシャルメディアによる活動は、スペースや時間を購入する必要がなく、ただ活動するだけで良い。ソーシャルメディアが広告ではないというのではなく、これまで広報活動と見做されていたものにより近いのである。

市場は間違っていない。ただありのままを受け入れるしかないのだ。印刷会社のオーナー、経営者、役員、その他関係者は、戦略を策定する際に市場で発生しているアイデアや行動を利用する必要がある。市場に向かって「間違っている」と言うのは（例えば、これまでずっとそうだったからという理由だけで「オンラインの利用を控えてもっと印刷を利用すべきだ」と言うのは）、自分の周りに壁を作ることである。そうなれば、どのように論証しても、どれだけ強調しても、防御姿勢を取っているようにしか見えない。「御社は間違っており、誤った方向に進んでいる。御社の直接の経験を基にするのではなく、当社が提供し文書で示した事実を理解しさえすれば、より賢明な判断が可能になるのだ」と顧客に告げたり、さらに悪い場合は喧嘩腰で伝えたりしても、成功した試しはない。

我々の義務は市場に参加することであって、市場を教育することではない：市場のトレンドを解釈し、収益をもたらす経験を顧客のために創出し、顧客の目標達成を助けることで、市場の一部となるのだ。経験が信念を作り出し、行動を変える。ある日、ある情報源から得た情報は、別の日に別の情報源から得た情報と矛盾する場合もある。市場における取引や観察の積み重ねから得られる継続的な経験は考え方を変えるものであり、それは定常的でゆるやかなプロセスである。我々は業界としてその一部となるべきであって、避け難いものを変えようと流れに逆行すべきではない。それよりも、避け難いものを利用することで、市場における新しいポジションを創出するのだ。

通常、市場に誤解があると主張するのは、変化によって損失を被る人々である。情報を愚痴の裏付けに使っても、こうした変化の先取りはできない。

神経科学を利用したダイレクトメールの役割の理解

「手に取ることができる物理的な広告の方が、内的感情とつながる脳の反応をより多く作り出す。これは、印刷広告の「内面化」がより大きいことを示唆している」

【試験対象の素材・活動】

英国のロイヤルメール社は、物理的な媒体とオンライン媒体のコミュニケーションの効果に違いがあるかどうかを理解したいと考えた。世界的な広告調査会社であるミルワード・ブラウン社は、バンゴール大学の実験消費者心理センターと共同で、ダイレクトメールなど物理的なマーケティング資料と画面に表示されたデジタル広告資料を、脳がどのように処理するか比較する調査を実施した。

手法：広告を処理する際に脳がどのように反応するかをより良く理解するために、磁気共鳴画像（MRI）スキャンを使用して脳の活動を直接調べた。

20人の被験者は、市場に発表済みの広告と、それと同じ分量の「ごた混ぜにされた」画像の両方を見せられた。「ごた混ぜにされた」資料が用いられたのは、物理的な資料は１つ以上の感覚を刺激するという事実を考慮し、これを制御するためである。

資料は、画面と印刷されたカードで被験者に示された。被験者が資料を見ている間、脳のスキャンが行われた。これは、マーケティングメッセージの処理が提示された媒体によってどのように影響されるかを評価するためである。

【実験結果】

手に触れることができる資料は、脳により深い痕跡を残す。

- 注：これは、単に物理的な資料が視覚と触覚の両方を刺激するためだけではない。これを説明するために、「ごた混ぜにされた」資料を見た時の脳の信号が差し引かれた。
- カードに印刷された広告では、視覚と空間情報の統合に関連する脳の領域内でより多くの活動が引き起こされた。つまり、「物理的な資料は脳にとってより『現実』であることがうかがわれる。それは意味と場所を持つのである。空間記憶の回路網と連動することから、それはより強く記憶と結びついている。」

物理的な資料は、より多くの感情的処理を伴う。これは、記憶とブランド連想にとって重要である

- 物理的な広告を提示された際、感情的に強力な刺激と記憶の処理に関与する脳の部分でより多くの処理が行なわれる。これは、物理的な広告を提示することで、感情的により鮮明な記憶が作られる可能性があることを示唆している。
- 身体の活動は小脳の活動を増加させる。これは、空間と感情の処理（並びに運動活性）を伴い、感情的処理の増強をさらに裏付けていると思われる。

物理的な資料は内的感情と関連する脳の反応を増加させたことから、広告の「内面化」がより大きいことが伺われる

- 感情的な活動に関係する脳の部分は、画面上の資料よりも物理的な広告によってより大きく活性化された。
- 脳の「デフォルト・ネットワーク」は、ダイレクトメールを見た時の方が活発化すると考えられる。この脳の回路網における活動は、外部刺激に対する人の内的感情の集中を高めることに関係している。この研究から、被験者は情報を自身の思考や感情に関連付けていたことが示唆される。

【結論】

「本調査は、バーチャルな広告よりも手に取ることができる物理的な広告の方が、より多くの感情の処理につながることを強く示唆している。物理的な媒体が提供する『現実』の体験は、より記憶の一部になり易い。また、より多くの感情を生み出し、より肯定的なブランド連想の形成に役立つと見られる。現実の体験も内面化されることから、物理的な資料はより個人的な影響を持ち、動機付けにも役立つと見られる」と結論している。

ヨーロッパにおける人口統計および広告の動向 ― 印刷物に対するそれらの影響

研究調査レポート「The Future of Print IV（印

刷物の将来４）」において、紙の消費量は景気後退時の急速な減少に続いて2021年までの10年間でさらに減少すると、我々は予測している。
特に、電子的な方法による置き換えと、今後さらに広まると見込まれる環境的な課題により、紙の利用に対する圧力は激しさを増すであろう。今後の印刷量を考える際には、同じ動きの反対の効果があることも考慮する必要がある。例えば、インターネット広告は成長しているが、多くのブラウザーやアプリケーションは広告を避けるためにポップアップをブロックする機能を備えている。オンライン広告は多くの印刷物の代替手段となっているが、同時に個人や小規模の事業者向けの新たな印刷市場が成長することを可能にしてもいる。この予測を行うに当たり、我々は経済的な予測に加えて人口の変動も重要な要素として考慮している。

【ヨーロッパの人口統計】

ヨーロッパの人口は、成長することが見込まれている。長期的には、15～59才のグループは減少し、70才以上の人口は増加するであろう。家族が分散化することから、世帯数は増加して世帯は小さくなり、その結果、請求書の受け取り手は増加するであろう。荷物のサイズが小さくなると、荷物とラベルの数が増加する。印刷市場にとって、これは良い前兆を示している。比較的裕福な国々のより多くの潜在的な消費者が、印刷されたものを消費し、包装されたものを購入し、書かれた郵便物を受け取るであろう。
高齢の消費者は、書籍から読書用の電子デバイスへの切り替えにそれほど積極的ではない。しかし、インターネットやタブレットコンピュータを使い慣れた世代が消費者の主流になるに連れて、長期的には抵抗感は減少するであろう。裕福な高齢の消費者は、広告主の重要なターゲットグループのひとつなのである。彼らは、パッケージやラベルの需要を押し上げる健康関連製品のようなものを数多く購入しているのである。

経済成長率は、印刷物や印刷されたパッケージの市場拡大においてカギとなる要素である。過去4年間における大混乱の結果、ヨーロッパの経済状況を予測することは困難になっている。西ヨーロッパの実質GDP成長率は、2011年から2016年にかけて平均で年率1.5%～2.5%の間となろう。一方、発展している東ヨーロッパでは、多少高めの成長率となることが見込まれる。
印刷物は、教育分野の重要な要素である。教科書、参考書、テスト用紙、成績表など、全てが印刷されている。全ての国において、読み書きの出来る教育程度の高い人々は、印刷された広告の利用増大につながる新聞や雑誌、書籍などの消費量を拡大する。物理的な教科書の代わりに、インターネットで教科書が配布されたり電子書籍の利用が拡大したりといった教育における支給品の変化は、印刷物に影響を与える。学校の生徒や大学生が宿題を手書きではなく電子的に提出するようになると、教育分野における紙の需要減少につながる。

【広告の動向】

物理的な製品としての広告、あるいは新聞や雑誌に掲載されている広告は、印刷量の重要な牽引役である。広告主によるインターネット広告需要の加速は、印刷された広告に大きな影響を与えている。全ての分野で印刷された広告の売上減少が見込まれている。広告費用に対する効果を注意深くモニターすることを通じて、消費者との絆を深める新たなマルチメディアコミュニケーションのテクニックが開発されている。ブロードバンド技術の使えるエリアが広まると、画像や写真を含む大きなデータ量の高速なダウンロードが可能になることから、こうした傾向はさらに加速するであろう。

コミュニケーション技術の進展は、コンピュータやタブレット、スマートフォンによって接続された世界の方向に進んでいる。インターネット利用率は、このメディアが着実に広まっていることを示している。これは一般的に、印刷物の読者数に対してマイナスのインパクトを与える結果となる。これらの変化を受けて、広告主は自社のマーケティング戦略全体を考え直し、電子メディアにおける実験により多くの経営資源を投入している。

オンラインでの価格見積や、デジタルワークフローの広まりは、印刷業界にとって印刷価格や印刷設備の稼働状況の透明性向上に役立っているが、印刷価格の継続的な値下げ圧力の原因にもなっている。また、インターネットは重要な新しい印刷市場を創出してもいる。Web-to-printを通じて、小規模な事業者向けに販促物や、個人の消費者向けにフォトブックやパーソナライズされたグリーティングカードのような製品を販売することを可能にしている。ビスタプリント社（Vistaprint）やフライヤーアラーム社（Flyeralarm）のような企業は、欧州の何百万という顧客や写真印刷業界の継続的な成長に貢献するため、インターネットを活用している。

【トランスプロモのコミュニケーションを改善する方法】

「トランスプロモ」という言葉が5年以上前に造り出されたとき、請求書の価値や役割を向上させるこのテクニックが急速に受け入れられる結果となる、という大きな希望があった。その概念は今でも興味をそそるものではあるが、実際には多くの企業が考えているほど単純なものではなかった。インフォトレンズ社は、トランスプロモを実施している主要企業に対して、請求明細書を使ったコミュニケーションの改善に役立つ提言を行なっている。
以下が、成功のカギである。

- 対話を変えること。専門用語からではなく、価値の提案から始めること。請求明細書は、全体的なコミュニケーションプロセスの一部であることが必要である、
- 組織の中の出来るだけ高いレベルの役員を巻き込むこと。会社のビジョンや究極的な価値を理解している顧客企業の役員は、様々な立場の人々を取りまとめて協力体制を作ることが必要不可欠であろう。
- 請求明細書上に書かれた個人的な教育的情報やサービスのメッセージの価値を議論することから対話を始めること。一旦、顧客の教育で成果を上げることができれば、プロモーションのメッセージは自然な結論として伝えられる。
- 焦点の合ったマーケティングコミュニケーションの取り組みとするため、ビジネスの目的が明確化されていること。また精確に・効果的に成功の度合いを測定するための指標の設定を確かにすること。

■海外情報誌「グローバル スコープ(GLOBAL SCOPE)」第５号　drupa2012 特集

社団法人日本印刷産業連合会・国際委員会では、海外情報誌「GLOBAL SCOPE」第５号を発行しました。世界最大の印刷機材展である“drupa”は今後の印刷産業の技術動向を知るための重要な手掛かりです。各分野の専門家に執筆を頂くとともに、印刷会社の視点から“drupa 2012”をどう見るかといった座談会も設け今後の印刷業界の技術動向を紹介しております。

目　次　第１章　前回drupaの2008年という“時代”を振り返って
第２章　drupa2012の概要
第３章　drupa2012における個別技術分野の動向
3－1　W2P、ワークフロー、MIS
3－2　デジタルプレス
3－3　オフセット印刷
3－4　フレキソ印刷
3－5　ワイドフォーマット
3－6　ポストプレス
3－7　インキ分野の動向

第４章　drupa座談会　印刷会社の視点でのdrupa2012
第５章　現地企業訪問
drupa2012ドイツ印刷会社視察に見る新たなビジネスモデル
Kern（ドイツ）及びSAGIM（フランス）におけるデジタルプレス導入事
07グループの業態変革
Appendix　日経印刷企業のグローバル事業展開

刊行日：2012年９月
判　型：A4判
総ページ数：84ページ
発　行：社団法人　日本印刷産業連合会
価　格：会 員・賛助会員　2,000円
一般　3,000円（税込、送料別）

■JAGAT印刷産業経営動向調査2012

◆業績：2011 年印刷会社の損益と財務の特徴
◆戦略：業績良好な印刷会社の経営構造と経営戦略とは
◆設備：設備・ＤＴＰの保有環境・満足度・投資意欲と投資対象、重点工程
◆指標：地域別・業種別・規模別・オフ輪有無別の経営指標

経営者･管理職､経営スタッフのために

本書は今回調査で第34 回を数える「JAGAT 印刷産業経営力調査」に基づく報告書である。経営者と管理職、経営計画策定や設備投資判断に携わるスタッフ向けに、最新データに基づく経営指標、戦略、設備動向などにより、計画策定、自社の客観評価、戦略決定の参考になることを目指して編著した。

業績良好な印刷会社の経営戦略、平均的な印刷会社の経営戦略などもわかり、印刷経営の今後を考えるための不可欠な一冊となっている。

印刷会社経営の今後を総合的に考える一冊。

編　著：JAGAT 研究調査部
体　裁：Ａ４判 104 ページ 無線綴じ １色
価　格：定価10,500 円（税込）、JAGAT 会員特別価格5,250 円（税込）
発　行：公益社団法人日本印刷技術協会

■JAGAT 印刷業クロスメディアレポート2012 [印刷業のクロスメディア対応に関する調査報告書]

印刷会社におけるクロスメディア対応の実態を可視化！

ソーシャルメディアの活用度合いや対応可能ジャンル、今後積極的に取り組みたい分野など、クロスメディア関連の設問をカバー。

多様化するメディア環境のなか、印刷業・印刷関連業がどのように取り組んでいるかを調査した業界唯一の報告書です。

調査項目としては

・twitter ／ Facebookの活用度
・「クロスメディア」をどのように捉えているか
・クロスメディア提案の売上貢献度合い

・クロスメディア関連の対応可能ジャンル
・Web サイト構築についての対応可能ジャンル
・モバイルサービスについての対応可能ジャンル
・障害となる要素・不安材料
・人材育成において重要視していること
・今後意欲的なジャンル・キーワード ほか

この調査で見えて来た事項は

・印刷業界におけるTwitter、Facebook 活用は増加傾向。
・クロスメディア提案の機会が拡大、特に東京で顕著。売上・利益貢献度も徐々に増加。
・クロスメディア関連での対応可能ジャンルは「電子書籍」「電子カタログ」「モバイルサイト構築」が増加。
・SNSに対する顧客からの引き合いが増加傾向。特に東京以外で増加。
・意欲的なジャンルとしてAR（拡張現実）が急上昇。

編　著：JAGAT 研究調査部
体　裁：Ａ４判 48 ページ
価　格：定価2,500円(税込)、JAGAT 会員特別価格1,250円(税込)
発　行：公益社団法人日本印刷技術協会

■JAGAT印刷白書2012

変革の時代の印刷メディア産業をナビゲートする印刷業界で唯一の白書

1993年以来毎年、印刷業界で唯一の白書として発刊してきたが、2012年版では新たな項目を追加し、図版点数も増やし、内容をより充実させている。

第１部「特集　印刷メディアと公益性」では、メディアの役割と公益性・公共性、信頼ネットワークの再構築、印刷文化の意義などを考察。第２部「印刷・関連産業の動向」、第３部「印刷産業の経営課題」では、社会、技術、産業全体、周辺産業という様々な観点から、ビジョンを描き込み、今後の印刷メディア産業の方向性を探った。印刷メディア産業に関連するデータを網羅、UD書体を使った見やすくわかりやすい図版を多数掲載し、経営比率に関する調査比較などのオリジナルの図版も増加した。さらに、電子書籍やM&A、印刷通販などに関する最新データも掲載。

まずは興味あるテーマのところから、一つでもニつでも読んでいただき、厚い本だからといって敬遠せず、そばに置いて時々この本を開いて幅広い用途で活用して欲しい。

刊行日：2012年9月26日
判　型：A4判並製
総図版点数：146点
総ページ数：152ページ
発　行：公益社団法人 日本印刷技術協会
定　価：9,600円（本体9,143円＋税）

NPiフォーム NEXT-IJ

次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。
当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性（耐水性、高発色性）を付与し、新たにラインアップいたしました。

■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/㎡)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※受注生産品です。お問い合せ下さい。

NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 印刷・情報用紙営業本部 情報用紙部
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel.(03)6665-1042

最高の製品とサービスを提供するために邁進します。

● MJP20MX-700

✹ グラフィックアーツ領域まで対応可能 ✹

・解　像　度 1200dpi×1200dpi
・印 字 速 度
　ハイスピードモード：160m/min
　ロースピードモード：80m/min
・最大印字幅 541mm

● MJP20W

LED-UV 対応

・解　像　度 600dpi×600dpi
・印 字 速 度 150m/min
・最大印字幅 541mm

eco

★ フルカラーインクジェットプリンターは、アドオンタイプや捺染用なども多数取り揃えております ★

お客様の喜び・満足を創造する
株式会社ミヤコシ
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 1-13-5
TEL:047-493-3854 FAX:047-493-3071
http://www.miyakoshi.co.jp

MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED

21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

□三菱NCR紙 スーパー □三菱IJフォーム用紙 □DFカラーM・G
□ダイヤフォーム □ダイヤメールシリーズ □OCR用紙 □感熱紙

三菱製紙株式会社
洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社
本　店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

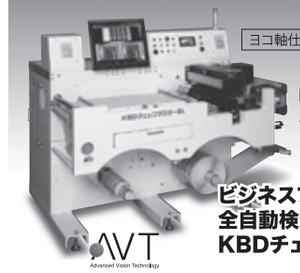
KOBUNDO

シール・ラベル用全自動検査装置

KBDチェックマスターSL

チェックマスター　シリーズ

全ての不良を検知する、全自動検査装置。



幅狭のシール・ラベル用紙に対応!

ビジネスフォーム用
全自動検査装置
KBDチェックマスターBF

廉価版！自動検査装置
KBDチェックマスターライト

特 長
●独自の検査アルゴリズムを使用
●簡単操作
●様々な印刷物にも検知対応
●プリントフロー（検査結果と履歴の保存機能）

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBDローラークリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、
資源の節約を極める

印刷機の稼働率を
大幅アップ

インキカラーコントロールシステム

KBDマイクロカラー マーキュリー

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加！

インキカラーコントロールが
グッと身近に。

新登場！！

印刷機材の総合商社
株式会社光文堂
本店／〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052（331）4111（代）
支社／東京 支店／東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所／北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄
http://www.kobundo.co.jp